

沖縄普天間基地即時撤去と県内移設に反対する県民集会に対するあいさつ

2009, 12, 23 11時から

石山公園 県労会議 花田 雅行

参加者の皆さん雨の中大変ご苦労様です。

9月に発足した連立政権は「沖縄県民の負担軽減の観点から、日米地位協定の改訂を提起し、米軍再編や在日米軍基地のあり方についても見直しの方向で望む」という合意を行いその実行が国民の目の前で試されています。普天間基地の問題について方針決定を政府が先送りしているもとの、ますます全国での闘いが重要になっている中での、今日の集会はまさに時期を得た物であり、「沖縄普天間基地即時撤去と県内移設に反対する」一点で一致する共同の集会です。

私は1997年8月に自治労連岡山県本部の平和の取り組みで辺野古に行き、座り込みを始めた辺野古の皆さんに合ってきました。まさに座り込みが始まって1年ばかり経過した時期でした。小学生の子どもと一緒にきました。座り込んでいる爺が「よくきてくれた」子どもの手とほっぺたを何度もさすってくれ、「子どもは宝」「命は宝」と話しかけてくれていました。そして、参加したみんなに「杭は打たせない、基地は作らせない」と決意も話されました。それから12年・座り込みを初めて13年間辺野古に杭は打たせていません。地元と県民と全国の闘いが「辺野古への移設」を実行させず、アメリカの恫喝の中でも「辺野古への移設」という政府の方針を出させていない今日の状況を作っています。

世界一危険な普天間基地は移設ではなく即時撤去しかありません。「普天間にいない物は、辺野古にもいない。辺野古にいない物は沖縄にもいない。沖縄にいない物は日本にいない」この声を大きくして、アメリカの基地はアメリカのお金でアメリカにかえってもらいましょう。

厳しい状況と、一方では普天間の問題で県民や国民の要求を実現しうる可能性もあるもとの、「普天間基地撤去・県内移設阻止」を必ず実現するために、参加された皆さんが、それぞれさらに大きな運動を展開され、大きな世論にする事を呼びかけて、県労会議も全力で闘うことを申し上げあいさつとします。

「普天間基地撤去・県内移設阻止」共にがんばりましょう。